

38
まいん

とうなるれきしりょうかん

東平歴史資料館

新居浜の
ふるさと
風景が
ここに
ある

入口は坑口を思わせる

とうなる
東平 歴史資

料館は、マイントピア別子東平ゾーンの中核施設として、平成6年(1994)に開館しました。

東平は、第三通洞の完成した明治35年(1902)に幕を開けます。さらに大正5年(1916)に別子山地区の東延^{とうえん}から採鉱本部が移され最盛期を迎えます。最も多い時で人口約3,800名を数えました。

その後、昭和5年(1930)に採鉱本部が端出場へと移されますが、昭和43年までの約67年間、別子銅山にとって重要な役割を果たし、この期間は『東平時代』と呼ばれます。



当時の道具などの展示

その東平の歴史、当時の生活文化などを分かりやすく紹介しているのが当施設です。特に、ジオラマや地形模型は詳細に再現され、当時の生活への思いに誘われます。

また、施設入口は坑口を、内部は坑道を思わせるようなイメージで、設計されています。

また、スロープなども設けてられ、誰もが利用しやすくなっています。

当時の風景をリアルに表現した
ジオラマ

さらに、15分間で別子銅山の歴史を紹介した学習ビデオも放映されています。

他に赤石山系の自然や銅製品等も展示し、半鐘^{はんしょう}を鳴らしたり、米俵を担ぐなどの体験を行うことができます。



学習ビデオの視聴も出来る



銅にちなんだ体験コーナー

